

第 2 回 国道 357 号社会実験推進協議会 議事要旨

日 時 : 平成 16 年 9 月 24 日 (金) 10 : 00 ~ 12 : 00

場 所 : 千葉県自治会館 大ホール

出席者 : 日本大学名誉教授

千葉県商工会議所連合会事務局次長

船橋市臨海工業地区連絡協議会勤労課長

市川市道路交通部次長・船橋市道路部参事・習志野市都市計画課主幹

(国交省) 関東地方整備局道路計画第二課長・千葉国道事務所所長・東京湾岸道路事務所所長・

国土技術政策総合研究所道路研究室室長

(日本道路公団) 東京建設局企画調査課課長・東京管理局東局営業企画課課長 , 交通技術課課長・

東京管理局千葉管理事務所所長

(千葉県) 県土整備部道路計画課課長・千葉地域整備センター所長・葛南地域整備センター次長

(首都高速道路公団) 東東京管理局調査課課長

1. 第 1 回協議会の結果について

議事要旨の内容及び資料修正案について特に異議なし。この資料を公表資料とする。

2. 効果検証調査の考え方について

アンケート調査によりユーザー(一般車、物流業者等)の認識をキャッチアップする必要がある。

漫然と調査を実施するのではなく、目的を持って測定を行う必要がある。

国道から高速道路への転換について、時間帯別に分析する必要がある。

年末年始の期間や休日と平日の違いを意識して、一般車利用者と物流業者各々の行動や認識の変化に着目する必要がある。

生活道路における状況の変化についても着目する必要がある。

3. 社会実験の詳細(案)について

1) 割引料金について

ETC 社会実験料金表(案)について特に異議がないため「案」をとり ETC 社会実験料金表とする。

2) 交通量等の調査の実施について

交通調査において人手観測の回数は妥当だと考えられる。機械観測による交通量調査を中心とした体制づくりやデータ分析を行う必要がある。

渋滞調査箇所として、市川市の高浜交差点など自治体の要望箇所について、現状データを踏まえて追加を検討する。

京葉道路穴川 IC から東関道を利用していた人が、実験だということで一般道を使って湾岸習志野 IC を利用するようにならないか。このような変化も分析するのであれば、千葉船橋海浜線の交通

調査地点をもっと千葉よりにすべきではないか。

3) アンケート調査の内容・方法について

他の社会実験のアンケート調査を参考にし、今回のアンケート調査に活かした方が良い。

アンケート調査においては車種や発着地も把握した方が良い。

4) チラシ・ポスターのデザイン・内容について

チラシ表面にも、裏面同様に割引対象ケースが視覚的にわかるように、図を修正した方がよい。

割引対象について湾岸習志野 IC を「利用した」と「出入りした」が混在している。「利用した」

は習志野本線料金所も含むという誤解を与えかねないので、「出入りした」で統一されてはどうか。

「割引対象区間：湾岸市川 IC～湾岸習志野 IC」と標記すると、首都高からそのまま東関道を利用する方が対象とならないような印象を与えるため、「湾岸習志野 IC を出入りした」という表現を強調した方が良い。

ポスター・チラシや横断幕・立て看板のデザインの修正等は事務局に委任する。

5) 広報の場所・手段について

チラシの設置箇所は千葉県内のみでなく、葛西臨海公園などの都内施設への設置も検討する。

横断幕の設置箇所として国道 357 号以外の国道 14 号や首都高での設置についても検討する。

認知度を高めるため、物流業者にポスターを貼ってもらう、休日のドライバーに向けラジオ放送をするなどを考えたらどうか。

幕張メッセ等とタイアップできないか。

6) その他

実験の終了を明確にすることが重要である。

以上